

メゾチントに挑戦!

参加者募集



浜口陽三《水差しとぶどうとレモン》1957年

メゾチントは、フランス語でマニエール・ノワール（黒の技法）と呼ばれ、その名のとおりに、黒い背景に浮かぶ豊かな明暗濃淡が特徴的な技法です。浜口陽三はこのメゾチントを現代に甦らせ、さらにカラーメゾチントを開発したことで知られています。この講座では、市販のメゾチントプレートを使用して小品制作に挑戦します。制作を通して、銅版画の多彩な魅力、浜口作品の豊かな表現力をあらためて鑑賞してみませんか。

浜口陽三

18世紀頃まで挿絵や写真のかわりとして使われていたメゾチント技法で作品を生み、さらに色版を重ねて刷るカラーメゾチントを開拓した浜口陽三（1909-2000）。さくらんぼやくるみ、てんとう虫などのモチーフを好んで描き、パリやサンフランシスコを拠点に、国際的に活躍しました。吉祥寺美術館では常設の浜口陽三記念室において、所蔵する浜口作品を様々なテーマで展示しています。

ワークショップ「メゾチントに挑戦！」 2つのコースからお選びください

集中コース

1日で1作品を仕上げます。

日時 = 2010年10月30日(土)

午前10時～午後4時

じっくりコース

平日の午後、2日間で1作品を仕上げます。

日時 = 2010年11月5日(金)、11月12日(金)

いずれも午後1時～午後4時

会場 = 吉祥寺美術館音楽室

講師 = 光平伴治

(銅版画家、イタリア・トスカナ州公認版画家)

定員 = 各コース 15名

(じっくりコースは2日間とも参加できる方に限る)

参加費 = 各コース 2000円

どちらのコースも基本的な内容は同じです。

主に初心者を対象としています。

申込方法はがき・FAX・電子メールのいずれかに、希望ワークショップ名とコース・住所・電話番号・メールアドレス(お持ちの方のみ)・氏名・年齢を記入の上、10月15日(金)《必着》までに「吉祥寺美術館ワークショップ係」までお申込ください。直接持参も可。応募者多数の場合は抽選(市民優先枠あり)とし、後日郵送にて全員に結果をお知らせします。その他詳細は、参加者宛にお知らせします。



武蔵野市立吉祥寺美術館

〒180-0004 武蔵野市吉祥寺本町 1-8-16 FFビル7階

Tel. 0422-22-0385 Fax. 0422-22-0386

museum@musashino-culture.or.jp